

揭示（百拾七圓四拾錢）（掛札一覽表⑤）

明治12年 1月



1850

[illegible]

- ・ 青字部分は、合理的推測による文字を筆者において追記したもの。
- ・ 「唧筒」（しよくとう）とは水鉄砲のこと、消防ポンプを意味する。
- ・ 出村にはこのとき買った消防ポンプ（手回し始動式ガソリンエンジンで、四輪の手引き搬送式。フールド製）が昭和三十年代当初ころまであり、旧集会場に西接する消防ポンプ車庫に置いてあった。

注  
釈

(上段からの続き)

金拾五錢	岡村芳次
金同	湯淺佐代吉
金同	湯淺模次郎
金同	湯淺津工
金同	橋本勝次郎
金同	石原磯吉
金同	上浦弥三郎
金同	岡本久五郎
金同	石井右左吉
金拾錢	湯淺宗吉

精隆社々員

精隆社々員

明治三十貳年一月

湯淺龍次	橋本辰次	内田順太	石井玉次郎	小西石三	内田柏三	湯淺喜三九	湯淺安太	湯淺金三	石井忠九郎	湯淺金三	森田重治	湯淺伊三郎	湯淺儀三郎	吉岡健三郎	江浦鹿太郎	湯淺吟治	湯淺虎太	湯淺廣太
------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	------	------	------

「昔とみやま写真館」に、海吉福吉の消防ポンプ（大正１５年製）、海吉本村の消防ポンプ（昭和１３年製）が、更に円山の消防自動車を紹介しており、円山の消防車の写真（原板）の裏面には「自動車唧筒購入記念」とある。明治３２年当時の１１１円は、現在の貨幣価値では数百万円にもなるだろうか。